

2013 年度センター試験 数学 1

第 4 問

a, b は $a > 0, b \leq 0$ である定数とし、 t の 2 次方程

$$t^2 + 4at + b = 0 \quad \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

を考える。方程式 ① を $(t + \text{ア})^2 = \text{イ} a^2 - b$ と書き直す。

$b \leq 0$ であるから、方程式 ① の実数解は

$$t = \text{ウエ} a \pm \sqrt{\text{オ} a^2 - b}$$

である。

方程式 ① と同じ a, b に対して、 x の方程式

$$(x - 2)^2 + 4a|x - 2| + b = 0 \quad \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

を考える。

(1) $b = 0$ の場合、方程式 ① の解は $t = \text{カ}$, $\text{キク} a$ である。このとき、方程式 ② の実数解の個数は ケ 個である。

(2) $b < 0$ の場合、方程式 ① の 0 以上である実数解は

$$t = \text{ウエ} a \pm \sqrt{\text{オ} a^2 - b}$$

である。このとき、方程式 ② の実数解の個数は コ 個である。

方程式 ① を書き直すと

$$t^2 + 4at + 4a^2 = 4a^2 - b$$

$$\Rightarrow (t + 2a)^2 = 4a^2 - b$$

となる。 $b \leq 0$ であることから $4a^2 - b \geq 0$ したがって、① の実数解は

$$t + 2a = \pm \sqrt{4a^2 - b}$$

$$\Rightarrow t = -2a \pm \sqrt{4a^2 - b}$$

である。

(1) $b = 0$ の場合、方程式 ① は $t^2 + 4at = 0 \Rightarrow t(t + 4a) = 0$ となるため、解は $t = 0, -4a$ である。また方程式 ② は

$$(x - 2)^2 + 4a|x - 2| = 0$$

となる。

$x \geq 2$ のときは

$$\begin{aligned}(x - 2)^2 + 4a(x - 2) &= 0 \\ \Rightarrow (x - 2 + 4a)(x - 2) &= 0 \\ \Rightarrow x = 2, \quad 2 - 4a\end{aligned}$$

$2 - 4a < 2$ より $x = 2 - 4a$ は不適

$x < 2$ のときは

$$\begin{aligned}(x - 2)^2 - 4a(x - 2) &= 0 \\ \Rightarrow x = 2, \quad 2 + 4a\end{aligned}$$

$2 + 4a > 2$ より $x = 2, 2 + 4a$ はともに不適。

以上より、方程式 ② の実数解の個数は $x = 2$ の 1 個である。

(2) $b < 0$ の場合、方程式 ① の 0 以上の解は

$$t = -2a + \sqrt{4a^2 - b}$$

である。

$x \geq 2$ のとき

$$\begin{aligned}(x - 2)^2 + 4a(x - 2) + b &= 0 \\ \Rightarrow x - 2 &= -2a \pm \sqrt{4a^2 - b}\end{aligned}$$

である。 $x \geq 2 \Rightarrow x - 2 \geq 0$ より

$$\begin{aligned}x - 2 &= -2a + \sqrt{4a^2 - b} \\ \Rightarrow x &= 2 - 2a + \sqrt{4a^2 - b}\end{aligned}$$

$x < 2$ のとき

$$\begin{aligned}(x - 2)^2 - 4a(x - 2) + b &= 0 \\ \Rightarrow x - 2 &= 2a \pm \sqrt{4a^2 - b}\end{aligned}$$

である。 $x < 2 \Rightarrow x - 2 < 0$ より

$$x - 2 = 2a - \sqrt{4a^2 - b}$$
$$\Rightarrow x = 2 + 2a - \sqrt{4a^2 - b}$$

以上から方程式 ② の実数解の個数は

$$x = 2 - 2a + \sqrt{4a^2 - b}, 2 + 2a - \sqrt{4a^2 - b}$$

の **2** 個である。